



# 農村ホームステイのすすめ

.....Let's try work-study in TOKACHI.....

食の絆を育む会

食糧がこの社会を支えている。  
その食糧を生み出す仕事は、  
本当に尊い仕事だと思います。



食べ物は「命の源」。

そんな命の糧を生み出す仕事は

とてもやり甲斐があると思います。



# 農村ホームステイから始まる 次代に向けた生きた学び

NPO 法人「食の絆を育む会」代表 近江正隆

日本の食糧基地・北海道十勝の約 500 戸の農業者たちが取り組む「農村ホームステイ」では、体験された多くの高校生たちから喜びや感動の声を頂いております。そして生徒たちは食・いのち・人・地域とのつながりからたくさんのことをここ十勝で学んでくれています。学校を取り巻く大きな社会問題である「不登校」「引きこもり」などの原因が直接体験の不足や希薄な人間関係、乱れた生活習慣にあると言われる中で、ここ十勝でのホームステイは、それらをすべて補う力があるように感じながら毎年受け入れを続けさせて頂いているところです。本パンフレットは、学校関係者の皆さんに向けて作らせて頂きました。ここ十勝は「生きるを感じる」学びの場です。ぜひ高校生とともに十勝にお越しください。心からお待ちしております。



## ■近江正隆プロフィール

1970 年東京生まれ。19 歳で単身北海道に移住。酪農・漁業を経て現在受入団体「食の絆を育む会」の理事長を務める。北海道教育大学釧路校非常勤講師・内閣府地域活性伝道師・文科省食育有識者委員など公職多数。受入高校からの要望に応じ、農村ホームステイの事前・事後学習の他、キャリア教育・食育などの講演活動を行っている。



## Step.1 農業体験

畑作・酪農など多種多様な農業の現場での体験は、都会に住む高校生には生まれて初めてのことばかりです。動物はもとより、毎日成長する作物と自ら向き合うことで、“いのち”の尊さについて心と体で感じてもらいます。



## Step.2 生活体験

大自然と真正面から向き合って生活を送る農家さんの“ありのまま”の農村生活を体験してもらいます。「食」を支える農家さんの笑顔は、都会の高校生の少し固まった心をほぐし、開放させます。たった一泊のホームステイにもかかわらず、高校生はそんな農家さんの笑顔に触れ、「笑顔」になって帰っていきます。



## Step.3 事後学習

農村ホームステイの後、学校に戻った生徒たちに対して学校の教員と連携し、事後学習を展開しています。生徒みんなで体験を振り返り、農山漁村の役割・食の大切さについて考えます。そして、生きること・社会とのかかわりを学んでいきます。体系的な「実体験+学び」からの気づきは、確実に社会を生き抜き、次代へつなぐための力を育てていきます。



# それから一年が経ち、 私は随分と成長したように思います。

奈良女子大学付属中等教育学校 岡田瀬礼奈



2014年6月25日

3:00pm▶入村式⇒ホスト（農家）との出会い

入村式会場に着いて指定された列に座っていると、しばらくして私たちの向かい側に受け入れ農家さんが座られました。私は初対面の方と話すことが苦手で農村ホームステイに少し不安を感じていましたが、あたたかくて打ち解けやすい雰囲気の受け入れ農家さんのおかげでリラックスすることができました。

4:00pm▶農作業の説明⇒作業開始

入村式会場を離れると、そこにあったのはどこまでも続くかのような長い長い直線道路。周りに障害物がほとんどなく、真っ青な空の広さが印象的でした。

動きやすい服装に着替えて作業開始。大豆の雑草取りでは一人一列を受け持って畑の端から端を一往復しました。大豆の苗を切ってしまうないように注意しながら、柄の長い鎌で雑草を取り除いて進んでいきます。次第に口数も少なくなり、黙々と作業に打ち込む私たち。ふと振り返ると、出発地点から随分と進んでいました。それでも先はまだ遠く。大豆の苗の緑色の列がはるか向こうで一つに収束しているかのように見えました。

いくら大幅な機械化・効率化が進んだとは言え、食料を育てて製品にまで持っていくには、ものすごく手間ひまがかかる。そんなこと知識としては知っているし、「食べ物を大切に」「感謝の気持ちを持って」などという定型句は幼い頃から飽きるほど耳にしてきました。けれども、そのほんの一部ですが農作業を体験させていただいたことによって、そういった知識や教訓が初めてすっと心に落ちたように思いました。



6:00pm▶ご家族と共に食事の準備

受け入れ農家さんのお宅に戻って晩御飯作り。お庭で収穫したお野菜も使います。メニューはカレーと生ハムサラダと野菜スティック。皆で分担して作りました。

普段は何も考えずに、すぐにご飯が食べられることを当然のように思うことが多いけれども、それは誰かが調理してくれていることによって初めて成り立っているのだと改めて感じました。





## 7:00pm▶ご家族と一緒に食事⇒食後の団欒

乾杯をして食事スタート。大人数で食卓を囲みます。採れたて新鮮野菜のシャキシャキとした食感が美味しかったです。

晩御飯を食べ終わると、食後の運動もかねて外に星を見に行きました。信号と信号の間隔の広い帯広では、明かりを消すと辺りはほとんど真っ暗。頭上には満天の星が広がっていました。普段は見えないような暗い星まではっきり。見上げすぎて首が痛くなり、途中から地面に寝転がって空を眺めました。視界を横切っていく人工衛星や時には流れ星まで。ゆっくりとした時間が流れていました。

## 翌日 1:00pm▶退村式⇒お別れ

一泊二日の行程もほぼ終わり、入村式の会場に戻ってきました。受け入れ農家さんと初めて対面したのがつい昨日のことだと思ふと不思議な気持ちです。

この一日間の出来事を思い返していくと、とても密度の濃い経験ができた私は恵まれていると感じました。私たちを受け入れてくださった農家さんをはじめ農村ホームステイ企画に携わる方々、そして今回の修学旅行に農村ホームステイを提案してくれた同級生など、本当にたくさんの、中には顔も知らないような人にも支えられてこの経験ができたのだと思うと、自然と涙があふれて止まらなくなっていました。



## 2015年6月吉日▶1年前を振り返って

私の中で農村ホームステイの体験は、事あるごとに思い返す記憶の参照点となっています。中でも、今の私の人格形成に大きく影響を与えたのは人との接し方について。

農村ホームステイを経験するまで私は、初対面の方に対してや面と向かって一対一での会話はあまり好きではありませんでした。話を繋げなければならないと思うと、何を喋ればよいか分からなくなって気まずい沈黙に気をもむことになるからです。しかしそうやって迎えたホームステイでは、あたたかな受け入れ農家さんのおかげでほとんど緊張もせず、穏やかな心で一泊二日を終えることができました。人はこれほどまでに打ち解けやすい雰囲気を出すことができるものなのか、と大きな衝撃を感じ、自分自身がそういった空気を作れる人間になりたいと思ったことを覚えています。

それから一年が経ち、私は随分と成長したように思います。学校でも、あまり関わりの無かった同級生と色々な行事を通して仲良くなったり、家族にも社交的になったと言われたりするようになりました。今では、人との新しい出会いや関係の深化に対してあまり難しく考えずに、気楽にその状況を楽しめばいいのではないかな、と思っています。

# 事後学習



何を体験し、何を学び、そこから何を感じ取ったのか？共に振り返り、共有します。

## 講演

受け入れ農家さんより提供していただく生徒さんへのビデオメッセージの上映や生活体験の振り返りワーク、生き方・職業観への学びにつながる出張講話やワークショップを実施しています。



## 調理実習

十勝から食材を取り寄せて料理を作ります。そこでよく作られるのが、ジャガイモを使った北海道の郷土料理「イモ団子」です。農村ホームステイでつながった農村風景や農家の顔を思い出して調理をすることで「いただきます」の意味を体で吸収し、感じていただきます。



香里丘高校 家庭科教諭  
十河先生より

生徒たちは大阪に帰ってからも修学旅行を通して、食べ物大切さや、命の大切さについてしっかり考えることができています。今までも家庭科の授業の中でそういったことは教えているつもりだったんですが、やはり農家の皆様といろんな体験をしたことが更にいい影響を与えてくれたのではないかと思います。

## フォトコンテスト

農村ホームステイで芽生えたつながりや愛着を育むことへのサポート活動として、その年に北海道十勝で農村ホームステイをした高校生を対象にフォトコンテストを実施しています。テーマは「見た人を元気にするような笑顔あふれるもの」。グランプリに輝いた高校生には卒業旅行として北海道にご招待しています！

グランプリに輝いた高校生が3月にやってきて、ホームステイをした農家さん宅にもう一度一泊しました。秋とは印象ががらりと変わった冬の十勝。寒い時期でもいつもと変わらず早朝から始まる搾乳を手伝い、ふわふわの雪にダイブし、大自然を体いっぱい浴びて帰っていきました。



▲グランプリ入賞作品



## 事後交流

ホームステイ終了後、4年以上付き合いが続いている方もいます。

受け入れ農家さんが奈良に遊びに行ったとき、生徒さん2名と再会し、5時間以上女子会をしたり、また、今度は生徒さんが農家さん宅を再訪し3泊していったこともあったそうです。そして、農家さんが手作りの漬物や羊羹、煮豆を送ったり、生徒さんからクリスマスプレゼントが届くなど、親戚のようなつながりが続いています。



受け入れ農家さんが奈良を訪ね、一年ぶりの再会、話に花が咲いたそうです。

## 教育現場より…先生からのメッセージ 大阪府立市岡高校 山中一郎先生

今、人の評価（目）を気にしながら、いわゆる空気を読むことに神経をつかっている生徒が多くいます。そのような生徒たちにとって、先入観をもたずに、そのままの自分を無条件で受け入れてくれる大人がいることはどれだけ癒されることでしょうか。飾らない素朴な人柄・温かい家庭の雰囲気、少し固まっていた生徒の心身をとがして開放してくれました。農村ホームステイ終了後、受け入れ家庭との別れ際の生徒たちの涙が何よりそのことを物語っていました。

今回の修学旅行を通じて担当者として、私は「バトンタッチ」という言葉を強く意識しました。「親が子どもへ伝えること」、「教員が生徒へ伝えること」、「生産者が消費者へ伝えること」、「消費者が生産者へ伝えること」など、次の未来を担う世代へ向けて、あらゆる場面で伝えることがあります。素晴らしい体験をした生徒が今後、自らの体験をもとに発信をしてくれることを期待します。



山中 一郎 先生



## 「農村ホームステイ」全国放送

平成 26 年 8 月 10 日（日）に、当法人で主催している「農村ホームステイ」が、TV 全国放送の 1 時間番組として取り上げられました。6 月 25 日から来勝いただいた奈良女子大学附属中等教育学校・5 年生（共学で高校 2 年生に相当）の 1 泊 2 日に密着し、生徒さんたちの汗と涙の体験を追ったドキュメンタリー番組です。



\*当法人の事務局へご一報いただければ、DVD をお送りすることも可能です。



にっぽんの未来に向けて必要なこと。  
それは、都市と農山漁村の更なる信頼関係。  
そして、その第一歩が農村ホームステイであり  
その次の一歩が事後学習と交流であると考えています。

次の世代にきちんとバトンを渡すために、  
ここ十勝から先生と一緒に考えながら  
一歩ずつ進んでいきたいと思います。  
一勝に来てください！  
そして感じててください！

ご相談・お問い合わせは〈食の絆を育む会〉まで▶Tel:015-578-7955 Fax:015-578-7956  
e-mail:info@shokuhug.com／公式ホームページ：<https://www.shokuhug.com/>



食料基地・北海道十勝から未来に向けて

いのちの糧「食」を生み出す農村。  
そこは「生きる」をこころとからだで感じ、  
家族や社会との繋がりや、  
大切さを学ぶことができる、  
大切な場所です！